

所属組織の学問領域が高位役職者の任期に与える影響

－藩校と老中に関する実証研究－

日大生産工（学部） ○佐藤大志 日大生産工 大江秋津

1. はじめに

人が組織で地位を求めることは、人間としての根源的な要求であり¹⁾、高い地位につけば、人から信頼され²⁾、能力が優れているとみなされ³⁾、自己主張もできる⁴⁾。人は高位を求め、それを維持したくなる。本研究は、高位の維持を可能とする要因の1つに、外部ネットワーク（External network）に着目した。トップマネジメントは、意思決定の際に外部のネットワークから得る情報に影響されて組織を変革する⁵⁾。効果的に人や情報にアクセスするためには、外部ネットワーク内でのポジショニングが重要であるが、様々なポジショニングがある中で何が最適であるかは定まっていない。

以上から、本研究は高位を維持するために重要なネットワークポジショニングを明らかにする。江戸幕府の老中をトップマネジメント、老中所轄の藩校ネットワークを老中の外部ネットワークとして位置づけ、江戸時代の藩校の学問領域が老中の任期に与える影響を実証する。

2. トップマネジメントの外部ネットワーク

先行研究より、トップマネジメントは組織の不確実性を抑えるための外部環境に関する情報は、個人の持つ紐帯を優先する⁶⁾。つまり、トップマネジメントによる組織の変化に関わる意思決定には、外部の紐帯が重要である。既存研究では、企業が中心性の高い企業と結合しているほど社長の在任期間が長くなる⁷⁾というネットワークの中心性が、トップマネジメントの任期に影響を与えることが実証されている。

約260年続いた江戸幕府は、幕府とその下部組織である藩を統治機構とした中央集権の仕組みで幕藩体制を構築した。幕府では将軍を頂点とし、将軍を支えながら実務を担う体制が敷かれていた。その最高位の役職が老中であり、大名でも、一定条件を満たす者が就任できる。大名の統治する藩には、藩校という藩士の子弟教育のための学問や武芸を学べる高等教育機関があった。藩校は、藩の知識人を養成し、藩士として将来の活躍を期待される人材を育成しようとし、そのため、藩校には国内でも指折りの学者を招聘した。福井藩は、全国の藩校に出向いて勉強する遊学をはじめ、他藩視察や教師招聘などのネットワークで全国的な情報収集を行った。幕末には、遊学で最先端の情報を得るために、いち早く、洋学を取り入れて教育をしてから送り出している⁸⁾。つまり、藩校の学問を基に形成されたネットワークを利用して、情報収集が行なわれていた。藩校は藩において知識や情報が行き交う場所であり、それらが藩主の意思決定に影響を与えることが考えられる。以上のことから、情報が集まる藩校のある藩を統治する老中ほど、在任の長期化に有利であることが考えられる。以上より、次仮説を提示する。

仮説1: 情報が集中する藩校を持つ老中ほど、老中に長く在任できる

3. 分析手法

(1) データと分析手法

本研究は、老中⁹⁾と藩校¹⁰⁾のデータを使用し、分析には、ネットワーク分析と負の二項分布モデルを用いた。分析期間は1736～1835年の100年間で、10年ごとにネットワーク分析を行い、その結果を利用した。老中の就任期間は就任直後から10年までを1期とし、その後10年ごとに2期、3期と分割した。負の二項分布モデルによる分析では、ネットワーク分析の結果と、対応する期の老中のデータで分析を行った。

(2) ネットワーク分析

藩校の学問データを基にネットワーク分析を行った。その際、老中が所轄とする藩の中には藩校が複数存在するものがあり、その場合は藩校の学問データを合算し、藩単位で分析を行った。そのため、ネットワーク図の藩校の名称は藩名を用いている。学問データ38件のうち、ほぼ全ての藩校が修学した漢学に関してはデータから除外した。その後、分析のために各藩校の情報中心性¹¹⁾を算出した。

(3) 負の二項分布モデルによる分析

本研究では、在任の期間を表す変数として老中の在任月数を従属変数とした。在任期間が1年未満の者がいたため、月数表示で在任期間を表した。独立変数には、情報が集中する藩校を表す変数として藩校の情報中心性を入れた。変数に扱う情報中心性は老中就任時の領地のものを使用しており、これは老中が学んだ藩校の中心性ではない。コントロール変数には、江戸時代の状態を説明する飢饉ダミーと寛政の改革ダミー、老中就任時の状態を説明する再任ダミー、過去の経験説明する奏者番経験ダミー、若年寄経験ダミー、京都所司代経験ダミー、側用人経験ダミー、西の丸老中経験ダミーを入れた。老中辞職時の状態に対する影響力を持つ変数に、病気による辞職ダミーと死亡による辞職ダミー、御免ダミー、差控えダミーを作成した。

4. 分析結果

図1, 2は各期間の藩校の学問のネットワーク図である。100年の間に、藩校の数が約5倍に増加して、ネットワークが拡大していること、また巨大なネットワークが存在する一方で、微小なネットワークを形成している閉鎖的な藩が確認できる。情報中心性が最も高い藩は、図1では円を描くように繋がっている三田藩などの9藩であり、図2では長府藩と岡藩であった。

表1は仮説を検定するための負の二項分布モデルによる分析の結果である。モデルⅠ、Ⅱは在任期間を従属変数としており、モデルⅡから

Does academic discipline help in retaining a grip on power ?

－ A longitudinal network analysis of “hanko” and “roju” in the Edo shogunate －

Taishi SATO and Akitsu OE

情報量が有意な結果を示した。係数は 12.44 で正となり、他の変数に比べて影響が大きい。これにより、仮説 1 は支持された。

表 1. 負の二項分布モデルによる分析

変数名	従属変数: 在任月数			
	モデルI		モデルII	
1 寛政の改革ダミー	- .00	[.09]	-.06	[.21]
2 飢饉ダミー	- .01	[.09]	-.20	[.18]
3 再任ダミー	- 1.69**	[.72]	-.83**	[.37]
4 奏者番経験ダミー	3.50***	[.84]	.62*	[.35]
5 若年寄経験ダミー	2.73***	[.70]	.28	[.34]
6 京都所司代経験ダミー	3.09***	[.63]	.29	[.26]
7 側用人経験ダミー	4.16***	[.67]	.87***	[.32]
8 西の丸老中経験ダミー	1.40***	[.53]	.54***	[.19]
9 病気による辞職ダミー	- .00	[.12]	-.37	[.33]
10 死亡による辞職ダミー	.01	[.10]	-.14	[.22]
11 御免ダミー	.50	[.55]	.39	[.52]
12 差控ダミー	.08	[.27]	.62	[.55]
13 情報量			12.44***	[4.32]
Log likelihood	- 505.89		- 500.40	

* $P < .10$ ** $P < .05$ *** $P < .01$ | 内は標準誤差

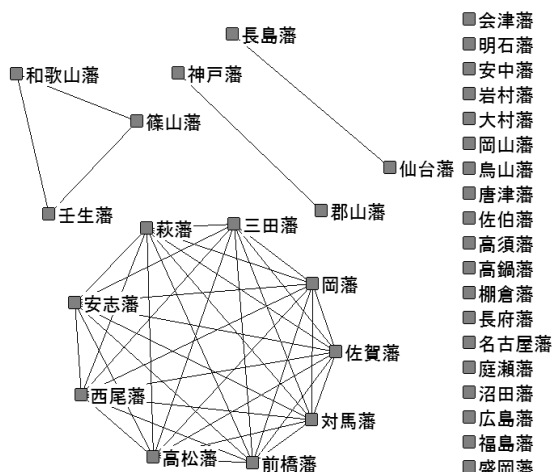


図 1. 1736~1745 年の藩校のネットワーク(35 件)

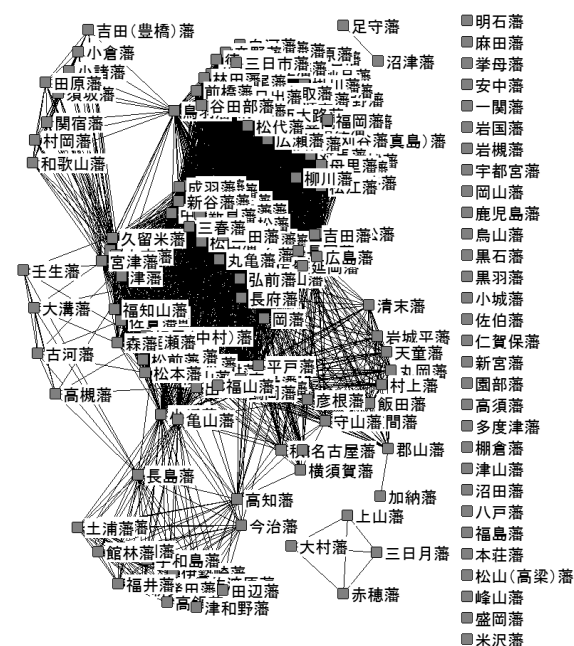


図 2. 1826~1835 年の藩校のネットワーク(176 件)

5. 考察

仮説 1 の支持により、高位役職者の任期の長期化のためには、外部ネットワーク内で情報が集まるポジションにいることの重要性を実証した。老中は、藩校の外部ネットワークから得た情報・知識により、次の点をうまく行えた可能性がある。組織の変化に関わる意思決定の選択において、幕府運営の失敗が少ないことや、うまくいったこと、対人関係の立ち回りをより円滑に行えたことなどが示唆される。その結果、任期の長期化に成功した可能性がある。

また、約 100 年間に藩校数が 5 倍近く増えていることは、遊学や教師招聘による情報獲得の重要性が認識され、藩校による間接的な効果の享受のためとも考えられる。また、独立している微小なネットワークには、その中でしかやり取りされない独自の情報があると考えられ、そのような藩校にアクセスすることが貴重な情報の獲得に繋がり、それらをトップマネジメントの意思決定に反映させることは、組織変革において新風を吹き込むかもしれない。

本研究には、外部ネットワークが情報収集に有益であり、情報が高位役職者の任期の長期化に良い影響を与えたことを実証した理論的貢献があるが、その一方で限界もあり、データ件数が 84 件という少なさのため、今後そのデータ件数を増やすべきである。

6. 参考文献

- Hogan, R., J. Hogan., Personality and status. D. G. Gilbert, J. J. Connolly, eds. Personality, Social Skills, and Psychopathology: An Individual Differences Approach. Plenum Press, New York, (1991) p.137-154.
- Tormala, Z. L., P. Briñol, R. E. Petty., "Multiple roles for source credibility under high elaboration: It's all in the timing". Soc. Cognition, (2007) 25(4) p.536-552.
- Ridgeway, C. L., The social construction of status value: Gender and other nominal characteristics. Soc. Forces, (1991) 70(2) p.367-386.
- Anderson, C., G. J. Kilduff., The pursuit of status in social groups. Current Directions Psych. Sci., (2009) 18(5) p.295-298.
- Geletkanyecz, Marta A., and Donald C. Hambrick. "The external ties of top executives: Implications for strategic choice and performance." Administrative Science Quarterly (1997) p.654-681.
- Daft, Richard L., and Robert H. Lengel. Information richness. A new approach to managerial behavior and organization design. No. TR-ONR-DG-02. TEXAS A AND M UNIV COLLEGE STATION COLL OF BUSINESS ADMINISTRATION, 1983.
- 金光淳, 稲葉陽二, "企業ソーシャル・キャピタルの企業業績への効果: 役員内部構造と企業間役員派遣ネットワーク構造分析アプローチ." 京都産業大学 学術リポジトリ 22 巻 (2013) p. 133-156.
- 熊澤恵里子. "幕末維新期の福井藩政改革と藩校." 福井県文書館研究紀要 1 (2004) p. 37-61.
- 美和信夫, 江戸幕府職制の基礎的研究: 美和信夫教授遺稿集, 広池学園出版部, 1991 年
- 大石学, 近世藩制藩校大事典, 吉川弘文館, 2006 年.
- Stephenson, Karen, and Marvin Zelen. "Rethinking centrality: Methods and examples" Social Networks 11.1 (1989) p.1-37.